

通勤路のサスペンス

今年のひまわりは奇怪である

異常に背の低いもの

地上からいくらかも離れないうちに

細かく枝分かれして

花は去年の種から生まれたものとも思えぬ

矮小な艶のないものばかり

もう既に小さく成熟して

固く枯渇しているのもある

「ひまわり街道」筋沿いに

延々とその不安な近未来風景が続く

去年の花は大きかった

蜂の足が掛からぬ程の厚みがあつた

種も逞しい縞を描いて

びっしりと実っていた

太い首を器用に曲げて

それでも充分自信に満ち

種はゆつくりと油の海を蓄えていた

去年を思いながら

僕は目をそむけて通りを歩く

夏を半ばにして

もう生を終えようとしている

ひまわりたち

種を自ら管理出来ぬ生き物達の

悲しき宿命は

この僕たちにも

寸分の誤差もなく

狙撃の照準を

定めつつあるのだろうか